

2015年3月期 第2四半期

決算説明会

株式会社 **トクヤマ**

2014年10月31日



CONTENTS

- 1 2015年3月期 第2四半期決算・通期業績予想
- 2 剰余金の配当について
- 3 マレーシア計画の状況
- 4 ローリング3カ年計画
- 5 トピックス
- 6 補足資料

① 2015年3月期 第2四半期決算・ 通期業績予想

1. 第2四半期決算概要
2. 営業利益増減分析
3. 通期業績予想修正

1. 第2四半期決算概要

連 結 (前年同期比)

(億円未満切捨て)

(億円)

	2014年 3月期 第2四半期 累計	2015年 3月期 第2四半期 累計	増 減	
			金額	%
売上高	1,350	1,438	+88	+7
営業利益	78	105	+27	+36
経常利益	60	82	+21	+36
当期純損益	45	△805	△850	-
1株当たり当期純利益(円)	12.99	△231.40		
為替(円/\$)	99	103		
国産ナフサ価格 (円/kℓ)	64,700	70,400		

定性情報(前年同期比)

(売上高) 1,438億円(7%増)

増収要因 : セメント・苛性ソーダ・医薬品原薬などの販売数量増、
石油化学製品・苛性ソーダなどの販売価格是正

(営業利益) 105億円(36%増)

増益要因 : 販売数量の増加、石油化学製品の損益改善

1. 第2四半期決算概要

連 結（前年同期比）

（億円未満切捨て）

（億円）

	2014年 3月期 第2四半期 累計	2015年 3月期 第2四半期 累計	増 減	
			金額	%
売上高	1,350	1,438	+88	+7
営業利益	78	105	+27	+36
経常利益	60	82	+21	+36
当期純損益	45	△805	△850	-
1株当たり当期純利益(円)	12.99	△231.40		
為替(円/\$)	99	103		
国産ナフサ価格 (円/kℓ)	64,700	70,400		

定性情報(前年同期比)

(経常利益) 82億円(36%増)

増益要因 : 営業利益の増加、休止部門費の減少

減益要因 : 支払利息の増加、為替差益から為替差損へ転換

(当期純損益) △805億円(赤字転落)

増益要因 : 経常利益の増加

減益要因 : トクヤママレーシアの多結晶シリコン製造設備の減損損失計上等による特別損益の悪化

1. 第2四半期決算概要

連 結（前期末比）

（億円）

	2014年 3月末	2014年 9月末	増 減
総資産	5,763	5,526	△236
自己資本	2,296	1,483	△813
自己資本比率	39.9%	26.8%	△13.0ポイント
有利子負債	2,407	2,951	+543
D/Eレシオ	1.05	1.99	+0.94
ネットD/Eレシオ*	0.74	1.25	+0.50
1株当たり純資産(円)	660.18	426.31	

定性情報(前期末比)

*ネットD/Eレシオ：(有利子負債－現預金・現金同等物)／自己資本

(総資産)

減少項目： トクヤママレーシアの多結晶シリコン製造設備の減損損失計上による有形固定資産の減少

(自己資本)

減少項目： 減損損失計上に伴う利益剰余金の減少

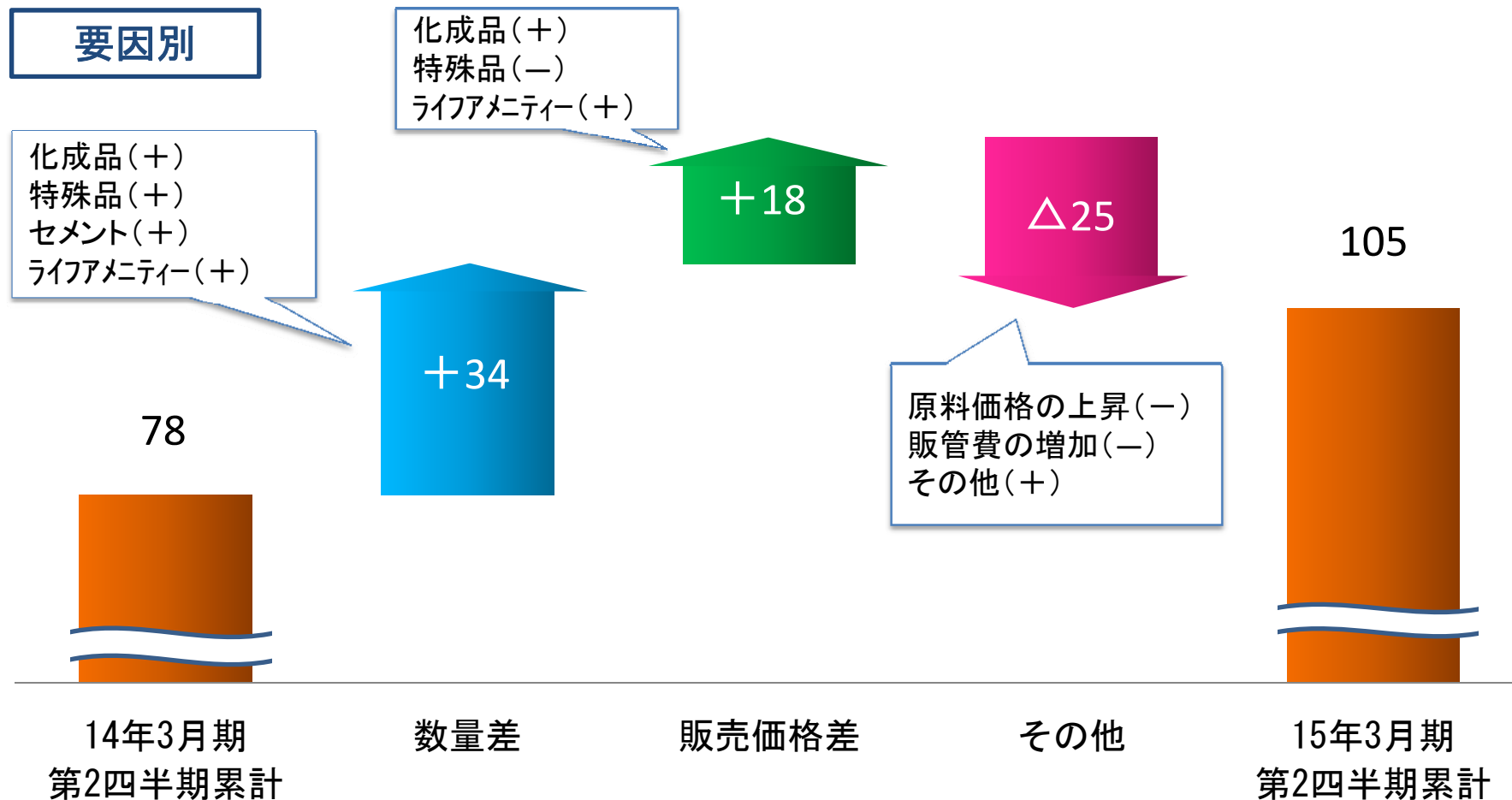
(有利子負債)

増加項目： 長期借入金の増加

2. 営業利益増減分析

(前年同期比)

(億円)



(注) 数量差 = (当期の販売数量 - 前年同期の販売数量) × (前年同期の販売単価 - 前年同期の変動費単価)
 販売価格差 = (当期の販売単価 - 前年同期の販売単価) × 当期の販売数量
 その他は変動費単価差及び固定費差など

3. 通期業績予想修正

連結（前回予想比）

（億円）

	2015年3月期 予想(7/31発表)	2015年 3月期 予想(10/31修正)	増減	2014年3月期 (参考)
売上高	3,005	3,090	+85	2,873
営業利益	185	210	+25	202
経常利益	135	150	+15	149
当期純損益	95	△750	△845	102
1株当たり純損益(円)	27.31	△215.58		29.37
為替(円/\$)	101	104		100
国産ナフサ価格 (円/kl)	71,200	69,700		67,300

修正の理由

（売上高）

増収要因： 半導体関連製品、医薬品原薬の販売数量増、
円安による輸出価格の上昇、連結子会社の売上高増

減収要因： セメントの販売数量減

（営業利益、経常利益）

増益要因： 売上高の増加

（当期純損益）

減益要因： トクヤママレーシアの多結晶シリコン製造設備の減損損失計上

3. 通期業績予想修正

セグメント別（前回予想比）

（億円）

	2015年3月期 予想(7/31発表)		2015年3月期 予想(10/31修正)		増減		2014年3月期 (参考)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
化成品	965	35	960	45	△5	+10	864	22
特殊品	575	40	595	60	+20	+20	524	60
セメント	805	60	815	50	+10	△10	789	66
ライフアメニティー	570	45	580	45	+10	0	570	48
その他	500	55	510	55	+10	0	472	41
計	3,415	235	3,460	255	+45	+20	3,222	240
セグメント間 消去・全社費用	△410	△50	△370	△45	+40	+5	△349	△37
連結決算	3,005	185	3,090	210	+85	+25	2,873	202

(注)各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

2 剰余金の配当について

1. 剰余金の配当について

2. 役員報酬の返上について

② 剰余金の配当について

1. 剰余金の配当について

中間配当及び期末配当の予想につきましては、2015年3月期通期の連結純損失が750億円(単体純損失750億円)の見込みであることから、10月31日開催の取締役会において、誠に遺憾ながら無配と決議させていただきました。

株主の皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

	1株当たり配当金		
	中間	期末	合計
前回予想(7/31)	3円	3円	6円
今回決定	0円	0円(予想)	0円(予想)
前期実績	3円	3円	6円

2. 役員報酬の返上について

連結子会社であるTokuyama Malaysia Sdn. Bhd.の多結晶シリコン工場・第一期プラントの製造設備に関して、減損損失748億20百万円、事業計画の見直しに伴う関連費用112億7百万円、合計860億27百万円を、当第2四半期連結会計期間において、特別損失に計上し、剰余金の配当を無配とすることを重く受け止め、以下の通り2015年6月までの役員報酬の自主返上を実施いたします。

役員報酬の返上内容：

月額報酬：執行役員、理事 20%を自主返上

臨時報酬：社長執行役員、専務執行役員 100%を自主返上

それ以外の執行役員、理事 50%を自主返上

③ マレーシア計画の状況

1. PS-1 (半導体向けグレード)
2. PS-2 (太陽電池向けグレード)
3. 太陽電池市場動向



1. PS-1 (半導体向けグレード)

【2009年8月】

マレーシア サラワク州にプラントを建設することを決定
当初は、当面太陽電池向けグレードを生産・販売する計画

【2011年2月】

プラントの建設開始

【2012年11月】

主として半導体向けグレードを生産・販売する計画に変更

【2013年2月】

一部設備を除き建設が完了し、その後試運転開始

1. PS-1 (半導体向けグレード)

事業計画の見直しに伴い、減損の兆候が認められることから、当該固定資産に係る回収可能性を検討した結果、減損損失748億20百万円、事業計画の見直しに伴う関連費用112億7百万円、合計860億27百万円を、当第2四半期連結会計期間において、特別損失に計上

<特別損失の計上に至った経緯>

当初想定していた品質・生産安定性が達成出来なかったため、その技術的な課題解決を図り、生産最適条件の確立及び2016年3月期中の顧客認定用サンプル出荷の努力を行ってきた

しかしながら、今般、析出装置に関する問題が存在し、様々な技術的な課題解決を図ったとしても、当面顧客認定用サンプルの出荷が事実上不可能であると判断し、現時点では将来キャッシュ・フローの発生が見込める事業計画を立てることが出来ないことから、今回の特別損失の計上に至った

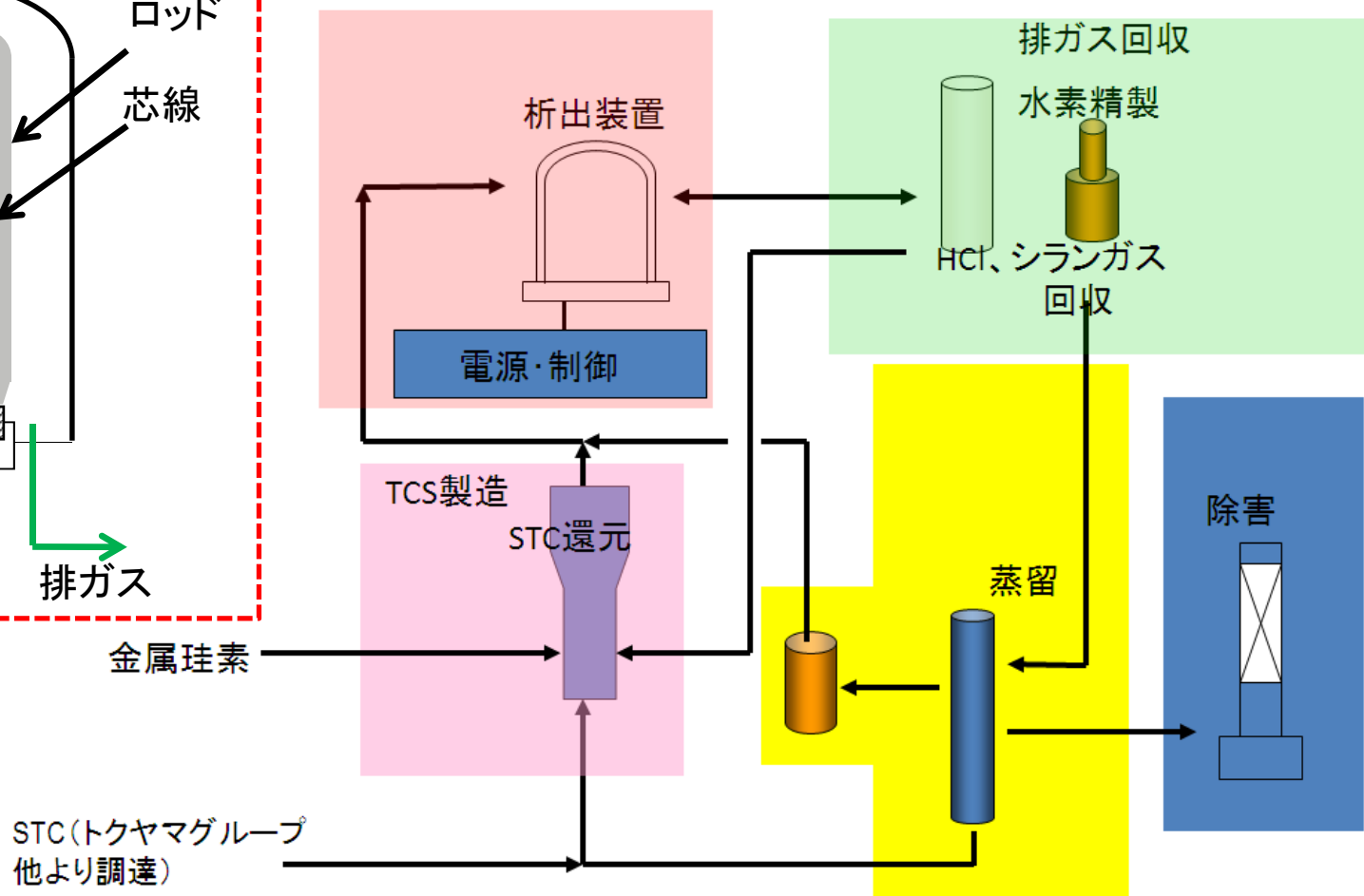
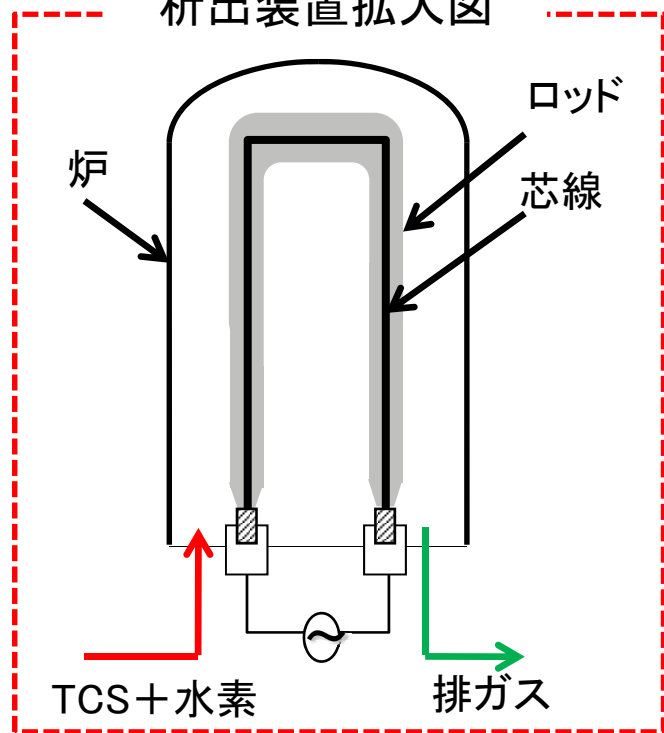
特別損失計上後の当プラントの簿価は33億円

特別損失の計上に伴うキャッシュアウトは無い

1. PS-1 (半導体向けグレード)

<多結晶シリコン生産フロー図>

析出装置拡大図



1. PS-1 (半導体向けグレード)

<今後の計画>

当プラントでの半導体向けグレードの生産に向けた活動(析出工程における品質及び生産性に関する技術開発)を継続していく

尚、析出装置メーカーに対しては、損害賠償の請求を検討している

半導体向けグレードについては、徳山製造所にて生産・販売を行っていく

1. PS-1 (半導体向けグレード)

<今後の対応>

監査役会(社外監査役を含む)を中心とした
調査委員会を本日付で設置した

委員会の調査結果を受けて、改善策を策定し、
実行していく

2. PS-2(太陽電池向けグレード)

生産能力: 13,800トン

総投資額: 1,300億円(インフラ・ユーティリティ設備含む)

- ・2014年10月より、生産・販売を開始
- ・2016年3月期にフル稼働とする計画
- ・中国をはじめとする複数の大手ウエハーメーカーと既に契約を締結済み

<フル稼働時の収益性>

想定販売価格 \$ 20 / kg : EBITDAマージン30%以上を目指す

原料調達が多様化、更なる生産性の向上、マネジメントスタッフの現地化推進などにより、コストダウンを図っていく

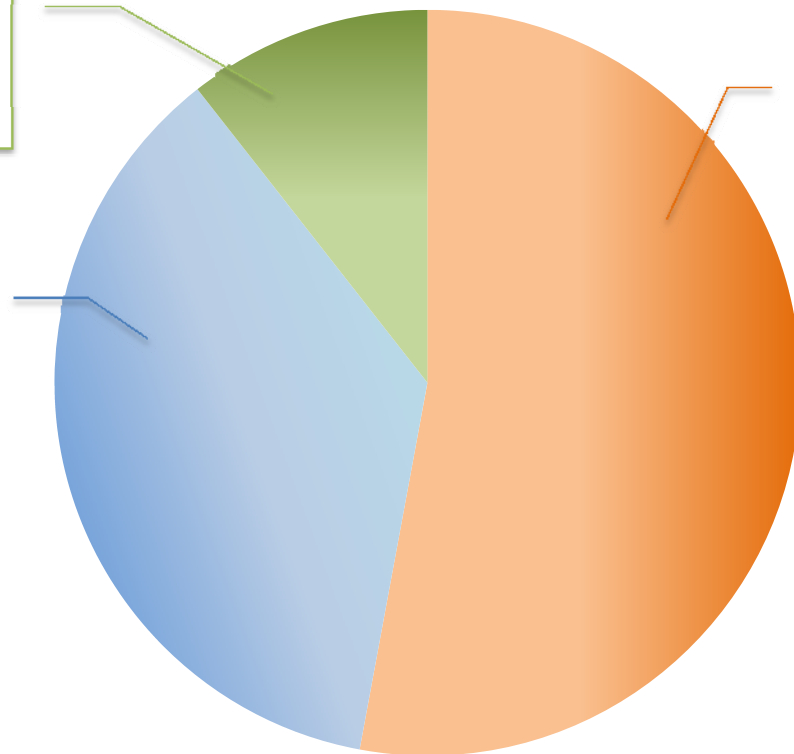
2. PS-2(太陽電池向けグレード)

2017年3月期における販売計画： 約13,000トン

14年10月時点における顧客との契約状況

当社多結晶シリコンの
購入を前向きに
検討中

当社多結晶シリコンの
購入に基本的に合意

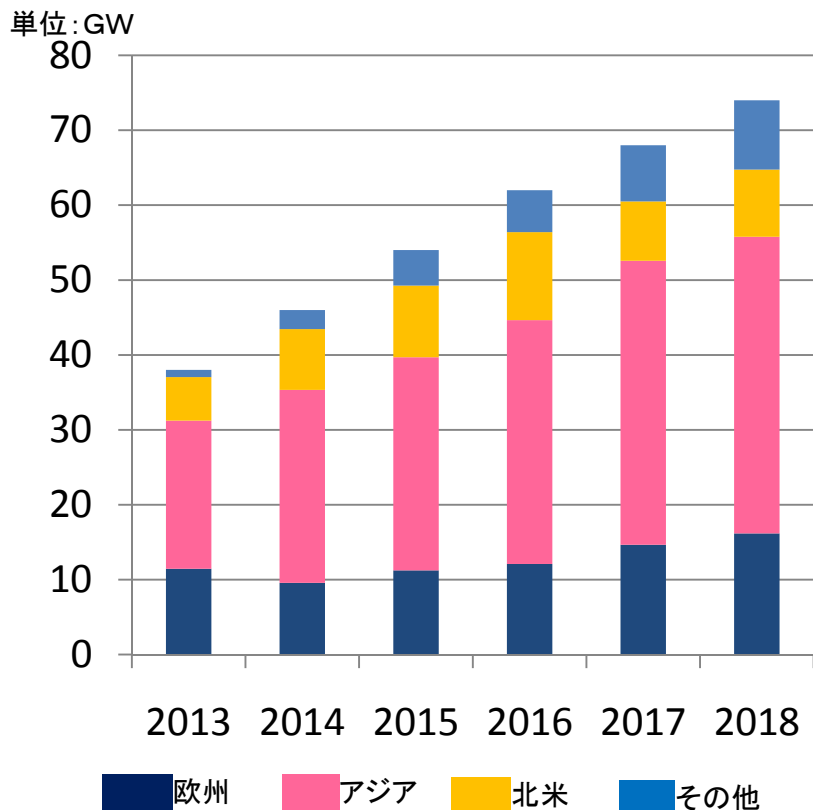


1年以上の販売契約を
締結済み、または締結
間近

3. 太陽電池市場動向

太陽光発電の導入量トレンド

地域別太陽電池導入量予測



(注)IHS Market Tracker (PV Integrated) Q3 2014 のデータ等を基に当社予測

各国の状況

<中国>

◆太陽光発電産業の健全な成長の為の政策を公表、2017年までの累積導入目標を70GWに設定、2014年の導入目標は13GW

◆2014年上期の太陽光発電導入実績は3.3GW(前年同期の約2倍)

<日本>

◆2012年7月の現行固定価格買取制度の導入以降、太陽光発電の導入量が急増、2013年の導入実績は6GW超、2014年上期(1-6月)は4GW超

<米国>

◆様々な太陽光発電の普及政策が存在し、市場拡大を後押ししている。特に、大規模太陽光発電市場では、州レベルでの政策が市場を牽引

<欧州>

◆政策による支援縮小や終了が相次ぎ、太陽光発電市場は2014年もやや縮小する見込み。その後は主要国の需要回復によって緩やかな成長トレンドに移行するとみられる

4 ローリング3カ年計画

1. 数値目標
2. 計画の進捗と今後の取り組み
3. 資金計画
4. キャッシュ・フロー計画
5. 財務方針

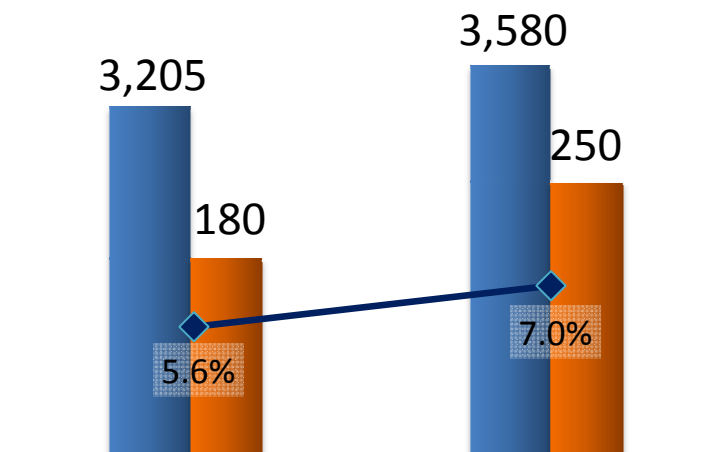
1. 数値目標

連 結

(単位:億円)

目標値(14年4月発表)

■ 売上高 ■ 営業利益 ◆ 営業利益率



2016年3月期
(目標)

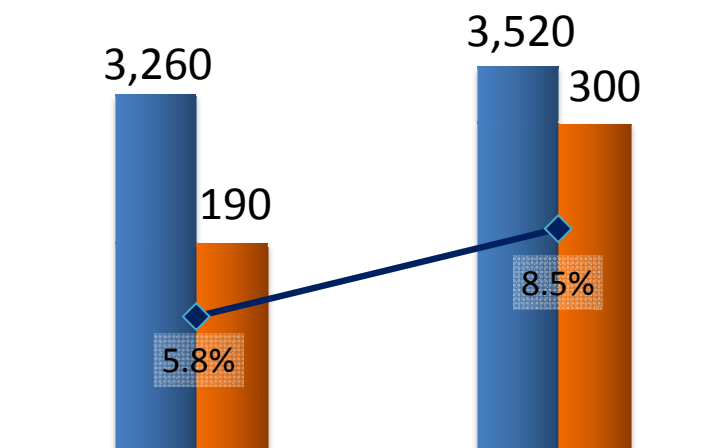
2018年3月期
(目標)

【前提】

為替100円/\$、国産ナフサ67,000円/kl

現時点の見通し

※特殊品セグメントのみ見直し



2016年3月期
(見通し)

2018年3月期
(見通し)

【前提】

為替100円/\$、国産ナフサ67,000円/kl

徳山製造所稼働率上昇に伴う固定費率の軽減、PS-2の設備の減価償却期間の変更(15→25年)などにより、営業利益増加の見通し

2015年4月に、次期ローリング3カ年計画の数値目標を公表する予定

2. 計画の進捗と今後の取り組み

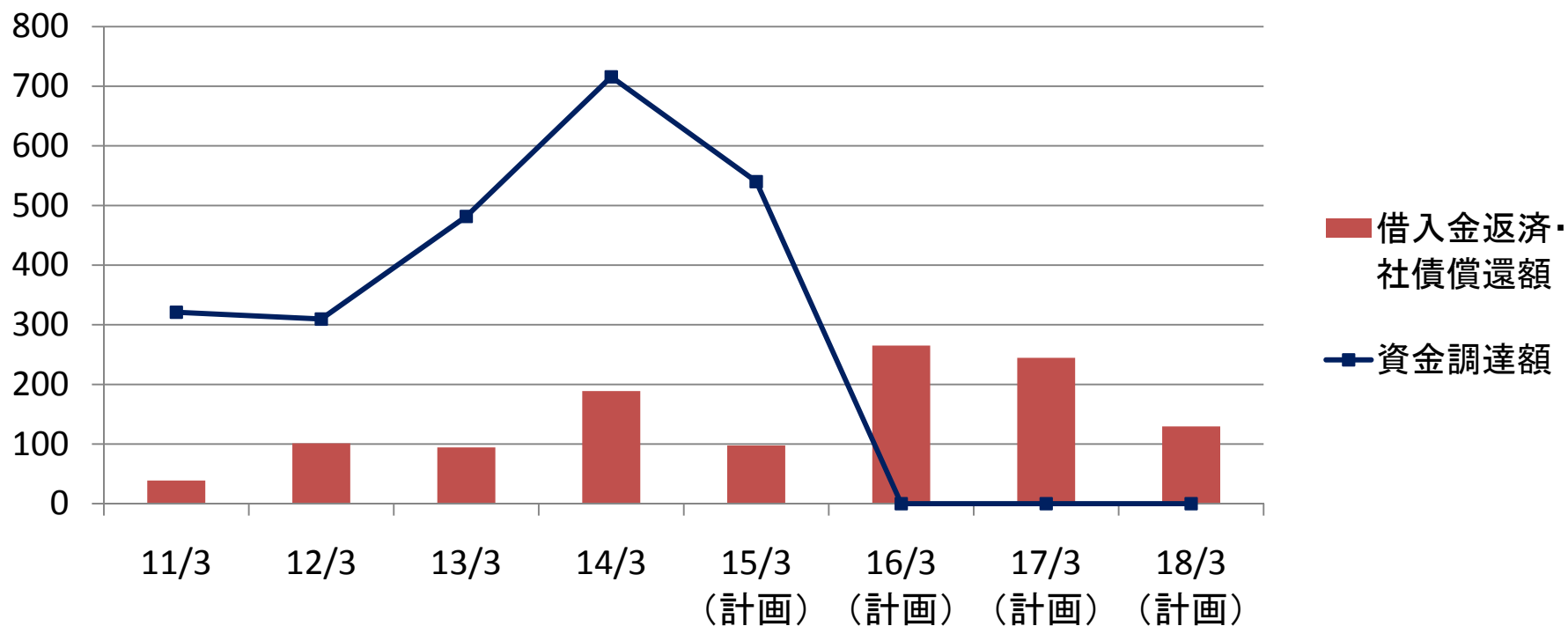
色付部分: 14年4月時点からの見直し・追加項目

施策	2013年2月～14年3月までの進捗	2014年4月以降の取り組み
多結晶シリコン 事業再構築	(徳山) 製造設備の減損 (マレーシア) 建設工事完了、試運転開始	全体として最適生産バランス構築 (徳山) <u>半導体向けグレード生産・販売量増加</u> (マレーシア) <u>PS-1: 事業計画の見直し</u> (製造設備の減損) PS-2: 生産・販売開始 (中国) 徳山・中国2拠点でシリカ事業の最適化
既存・新規 事業収益向上	液化水素製造開始 廃石膏ボードリサイクル工場竣工 中国での微多孔質フィルム製造設備増強	酸化プロピレン製造設備増強 クリンカ輸出インフラ強化 ソーダ灰共同事業会社営業開始 <u>塩化ビニル事業構造改革</u> <u>高純度窒化アルミニウム製造設備増強</u>
費用削減	経費・購買費・人件費等の緊急的な 削減により計画を上回る実績	生産性の向上、構造改革等により、 恒久的な費用削減を目指す

3. 資金計画

単 体

(億円)

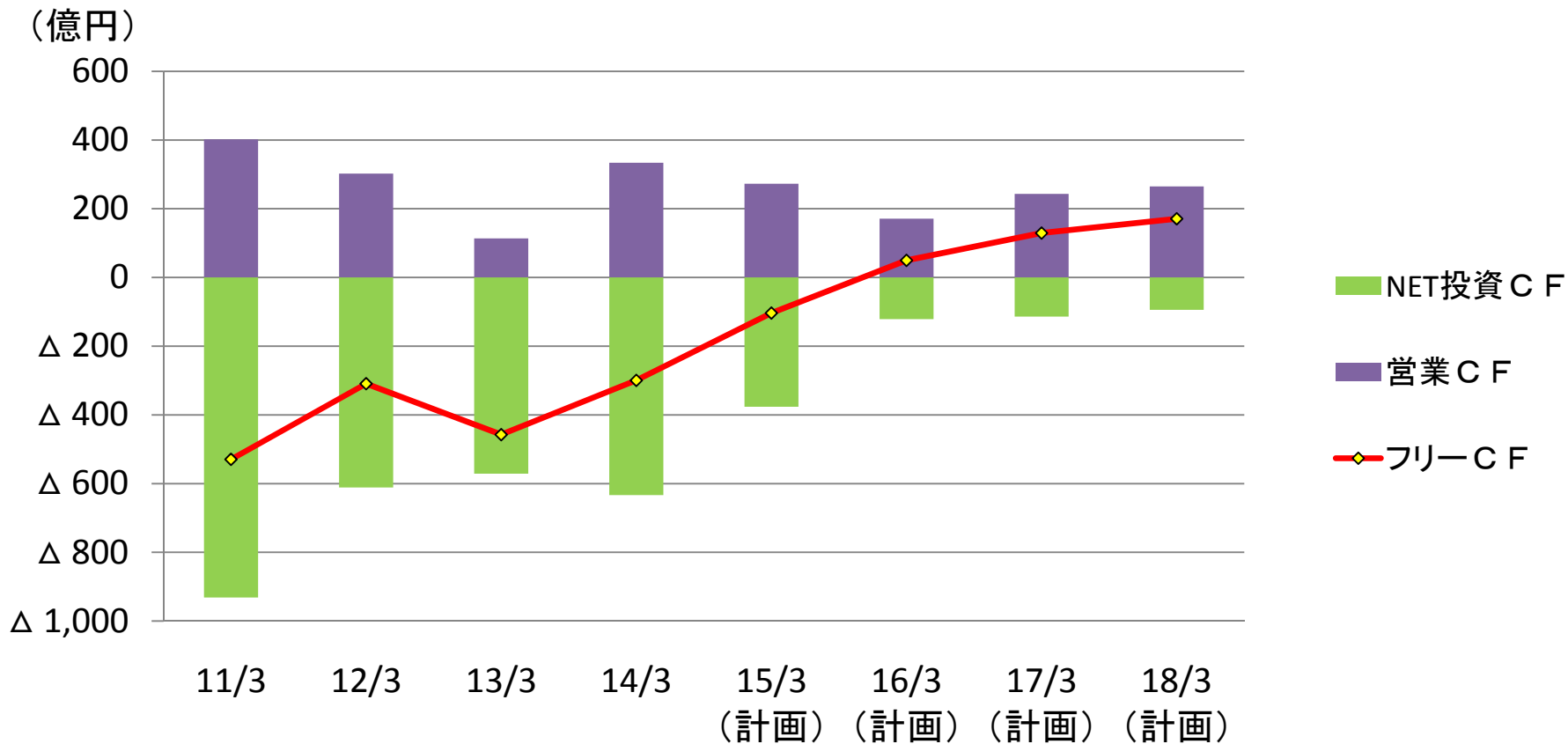


2016年3月期以降、新規資金調達の計画は当面無い。
手許資金も十分な確保ができており、金融機関からの継続的な支援協力も頂いている。

4 ローリング3年計画

4. キャッシュ・フロー計画

単 体



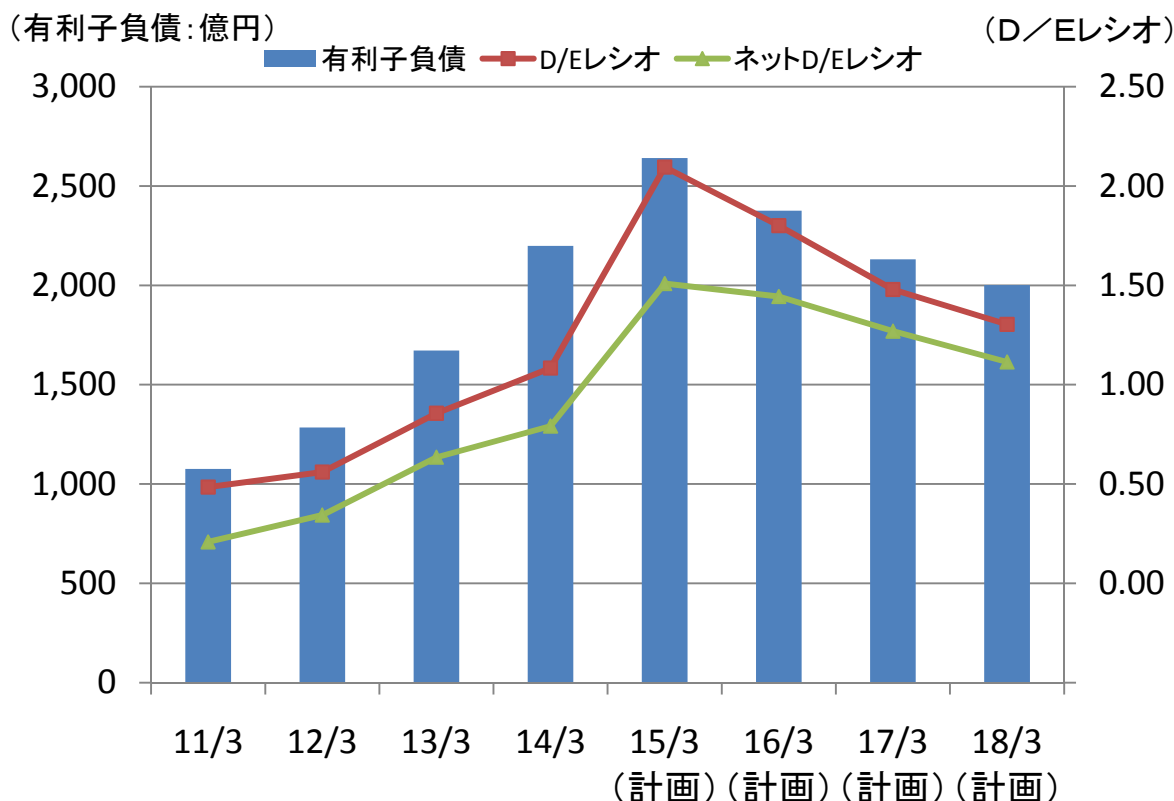
トクヤママレーシア(TMSB)への投資により、フリーキャッシュフローはマイナス

既存・新規事業の収益向上、全社を挙げての費用削減等により、2016年3月期以降は、フリーキャッシュフローはプラスに転じる計画

5. 財務方針

収益改善計画の着実な遂行、マレーシア(PS-2)の生産・販売開始に伴うキャッシュの回収、投資の厳選(減価償却の75%以内)等により、当面は財務基盤の回復、安定化に努める。

有利子負債残高推移 (単体)



*ネットD/Eレシオ: (有利子負債 - 現預金・現金同等物・金銭信託) / 自己資本

2015年3月期(14年4月時点の計画)	
有利子負債残高	2,640億円
D/Eレシオ	1.28
ネットD/Eレシオ※	0.97

2018年3月期(14年4月時点の計画)	
有利子負債残高	2,000億円
D/Eレシオ	0.87
ネットD/Eレシオ※	0.66



2015年3月期(現時点での計画)	
有利子負債残高	2,640億円
D/Eレシオ	2.10
ネットD/Eレシオ※	1.51

2018年3月期(現時点での計画)	
有利子負債残高	2,000億円
D/Eレシオ	1.30
ネットD/Eレシオ※	1.11

Chemistry with a heart

TOKUYAMA



5 トピックス

1. 塩ビ事業の事業構造改革
2. 高純度窒化アルミニウム粉末
製造設備の増強



1. 塩ビ事業の事業構造改革

製販体制の再構築で塩ビ事業を強化

◆ 汎用塩ビ生産を競争力の高い徳山工場に集約

- ・2015年9月末を目途に千葉工場の生産を停止
- ・徳山工場に集約し製造出荷体制を再構築
- ※徳山工場の一部設備の増強を計画

◆ 二拠点での最適生産体制で基盤強化を図る

- ・汎用塩ビ：徳山工場（年産145,000トン）
- ・ペースト塩ビ：愛媛工場（年産30,000トン）
- ※千葉工場（年産80,000トン）
- ・関東地区ユーザーには徳山工場製品で対応



新第一塩ビ株式会社の概要

- ・資本金：20億円
- ・売上高：222億円（14年3月期）
- ・資本構成
 - ：(株)トクヤマ 71%
 - ：住友化学(株) 14.5%
 - ：日本ゼオン(株) 14.5%

2. 高純度窒化アルミニウム製造設備の増強

粉末製造能力を年産480トンへ増強

- ・現在 360トン/年 → 増強後 480トン/年

◆ 世界的な省エネルギーの取組みが拡大

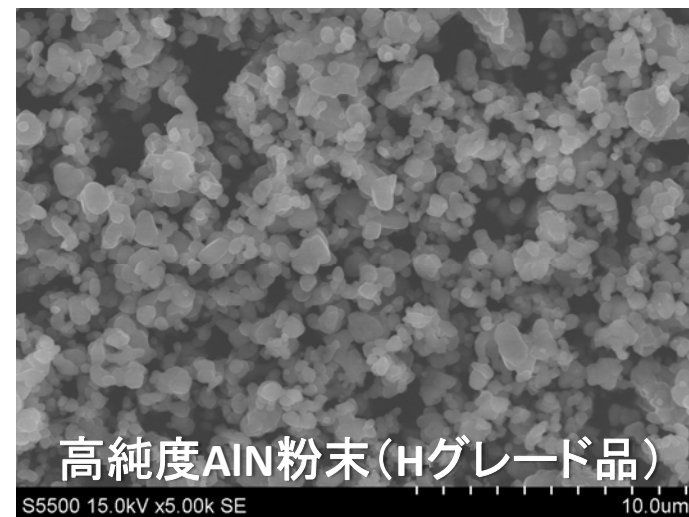
- ・拡大する放熱市場 (PD, LED市場, 半導体装置) への要求にAlN素材で応えていくことで事業拡大を図る

・市場の動向

PD用白板 : 世界的な電鉄、EV/HEV需要の拡大

LED用白板 : 車載用など高出力照明のLED化

半導体装置 : デバイス設計の3D化などによる
需要拡大





6 補足資料

1. セグメント別売上高／営業利益
2. 連結財務諸表(要約)
3. キャッシュ・フローの状況
4. 営業外損益の内訳
5. 特別損益の内訳
6. 主要指標
7. 業績推移
8. 主要原燃料価格推移
9. 設備投資額・減価償却費推移
10. 有利子負債残高推移
11. 業績予想修正(上期・下期)
12. 主要グループ会社売上高
13. 多結晶シリコン市場動向
14. 太陽電池マーケット

⑥ 補足資料

1. セグメント別売上高／営業利益 (前年同期比)

(億円)

	2014年3月期 第2四半期 累計		2015年3月期 第2四半期 累計		増 減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化成品	415	7	439	24	+23	+6	+16	+212
特殊品	234	15	241	27	+6	+3	+11	+69
セメント	364	27	386	22	+22	+6	△5	△20
ライフアメニティー	271	20	300	25	+29	+11	+5	+25
その他	232	21	249	26	+16	+7	+5	+27
計	1,518	93	1,617	126	+99	+7	+33	+35
セグメント間消去・ 全社費用	△168	△15	△179	△20	△10	—	△5	—
連結決算	1,350	78	1,438	105	+88	+7	+27	+36

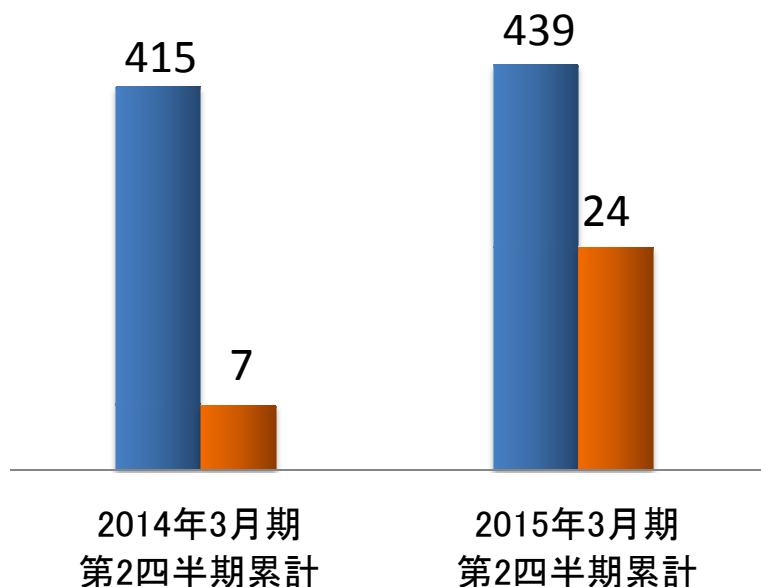
(注)各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

1. セグメント別売上高／営業利益 （前年同期比）

化成品

増収増益

■ 売上高 ■ 営業利益
(億円)



定性情報

(苛性ソーダ)

- ・国内の販売数量の増加
- ・原料価格上昇に対応した価格是正

(塩ビモノマー)

- ・国産ナフサ価格の上昇による原料コストの増加
- ・アジア市況の上昇による損益改善

(塩ビ樹脂)

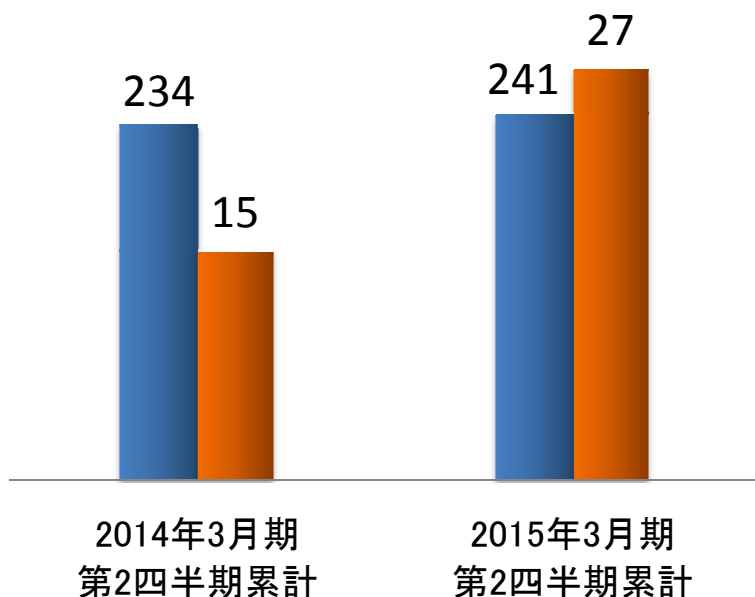
- ・国産ナフサ価格上昇に伴う原料コストの増加
- ・原料価格上昇に対応した価格是正

1. セグメント別売上高／営業利益 （前年同期比）

特殊品

増収増益

■ 売上高 ■ 営業利益
(億円)



定性情報

(多結晶シリコン)

- ・半導体向けは、スマートフォンなど携帯端末の需要の伸長を背景に販売数量増
- ・太陽電池向けは、利益重視の販売戦略により販売数量減

(乾式シリカ)

- ・半導体用研磨材向けを中心に販売数量増

(窒化アルミニウム)

- ・パワーデバイスやLED向けを中心に販売数量増

(電子工業用高純度薬品)

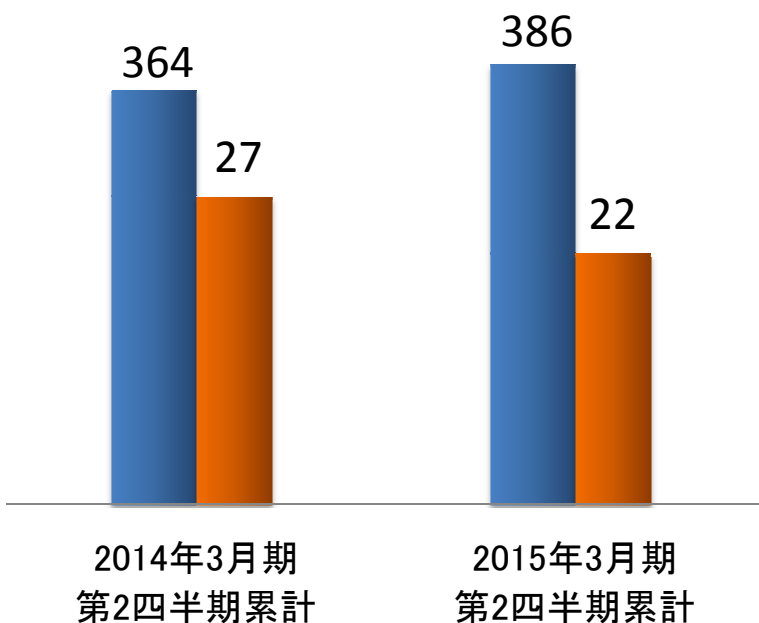
- ・半導体及び液晶製造向けに販売数量増

1. セグメント別売上高／営業利益 （前年同期比）

セメント

増収減益

■ 売上高 ■ 営業利益
(億円)



定性情報

(セメント)

- ・天候不順による国内販売数量の伸び悩み
- ・需要が堅調なアジア向けに輸出数量増
- ・セメントタンカー新造等による物流コストの増加

(資源環境事業)

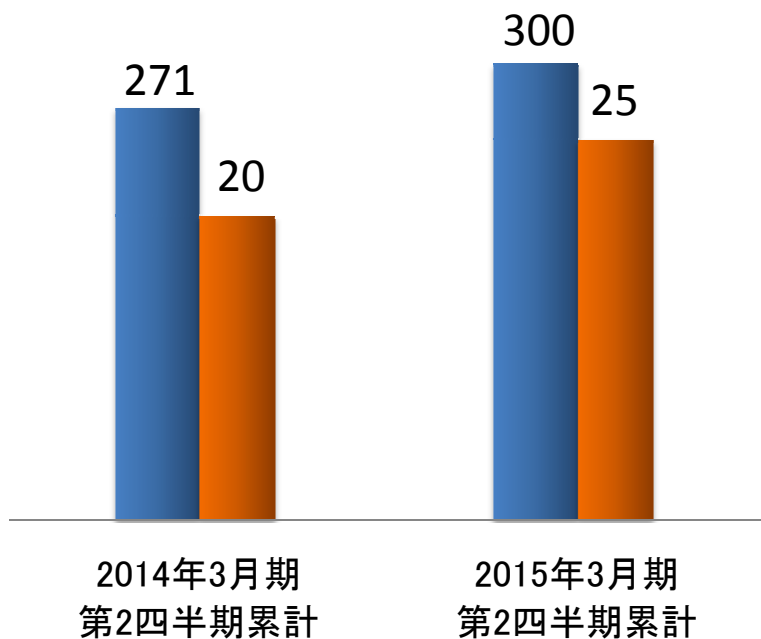
- ・廃棄物受入量は横ばい

1. セグメント別売上高／営業利益 （前年同期比）

ライフアメニティー

増収増益

■ 売上高 ■ 営業利益
(億円)



定性情報

(医薬品原薬)

- ・ジェネリック医薬品向けを中心に販売数量増

(微多孔質フィルム)

- ・天津工場稼働開始により販売数量増

(ポリオレフィンフィルム)

- ・原料価格上昇に対応した販売価格是正

(ガスセンサ)

- ・ガス警報器や空気清浄機用途を中心に販売数量増

(医療診断システム)

- ・血液検査向けに販売数量増
- ・コストダウンによる利益率改善

(樹脂サッシ)

- ・消費増税の反動で販売数量減

2. 連結財務諸表(要約)

損益計算書

(億円)

	2014年 3月期 第2四半期 累計	2015年 3月期 第2四半期 累計	増 減	
			金額	%
売上高	1,350	1,438	+88	+7
売上原価	982	1,020	+37	+4
販管費	289	312	+23	+8
営業利益	78	105	+27	+36
営業外損益	△17	△23	△5	-
経常利益	60	82	+21	+36
特別損益	△3	△879	△875	-
税前当期純損益	57	△796	△853	-
法人税等	12	8	△3	△27
当期純損益	45	△805	△850	-

2. 連結財務諸表(要約)

貸借対照表

(億円)

	2014年 3月末	2014年 9月末	増減	
			金額	%
資産合計	5,763	5,526	△236	△4
流動資産	1,916	2,320	+404	+21
有形固定資産	3,231	2,581	△649	△20
無形固定資産	101	113	+12	+12
投資その他の資産	514	510	△3	△1

	2014年 3月末	2014年 9月末	増減	
			金額	%
負債合計	3,398	3,976	+578	+17
流動負債	992	1,133	+140	+14
固定負債	2,405	2,843	+437	+18
純資産合計	2,364	1,549	△814	△34

3. キャッシュフローの状況

連 結

(億円)

	2014年 3月期 第2四半期 累計	2015年 3月期 第2四半期 累計
営業活動によるキャッシュ・フロー①	110	165
投資活動によるキャッシュ・フロー②	△549	△294
フリー・キャッシュ・フロー③(①+②)	△439	△129
財務活動によるキャッシュ・フロー④	211	531
現金及び現金同等物に係る換算差額⑤	6	2
現金及び現金同等物の増減額⑥(③+④+⑤)	△221	405
現金及び現金同等物の期首残高⑦	524	699
連結の範囲変更に伴う増減額⑧	4	0
現金及び現金同等物の期末残高⑨(⑥+⑦+⑧)	307	1,104

4. 営業外損益の内訳

連 結
(前年同期比)

(億円)

		14年3月期 第2四半期 累計	15年3月期 第2四半期 累計	差損益	備 考
営業外 収益	受取利息・配当金	3	3	+0	
	その他	13	11	△1	為替差益減 △3 持分法投資利益増 +1
	計	16	15	△1	
営業外 費用	支払利息・社債利息	12	23	△10	
	その他	21	15	+5	休止部門費減 +10 為替差損増 △2
	計	34	38	△4	
営業外損益		△17	△23	△5	

(注) 差損益の表示は、利益を+、損失を△としている

5. 特別損益の内訳

連 結
(前年同期比)

(億円)

	14年3月期 第2四半期 累計	15年3月期 第2四半期 累計	差損益	備 考
特 別 利 益	5	0	△5	投資有価証券売却益 △3
特 別 損 失	9	879	△870	固定資産減損損失 △757 購入契約損失引当金繰入額 △112
特 別 損 益	△3	△879	△875	

(注) 差損益の表示は、利益を+、損失を△としている

6. 主要指標①

連 結
(前年同期比)

		2014年3月期 第2四半期累計		2015年3月期 第2四半期累計		増 減	
		連結	単体	連結	単体	連結	単体
設備投資額	億円	382	19	223	42	△159	+22
減価償却実施額	億円	81	55	80	50	△0	△5
研究開発費	億円	42	31	44	32	+1	+1
金融収支	億円	△9	+20	△19	+21	△9	+0

6. 主要指標②

連 結
(前 期 末 比)

		2014年3月末		2014年9月末		増 減	
		連結	単体	連結	単体	連結	単体
有利子負債	億円	2,407	2,200	2,951	2,741	+543	+540
期末人員	人	5,756	2,041	5,892	2,004	+136	△37

6. 主要指標③

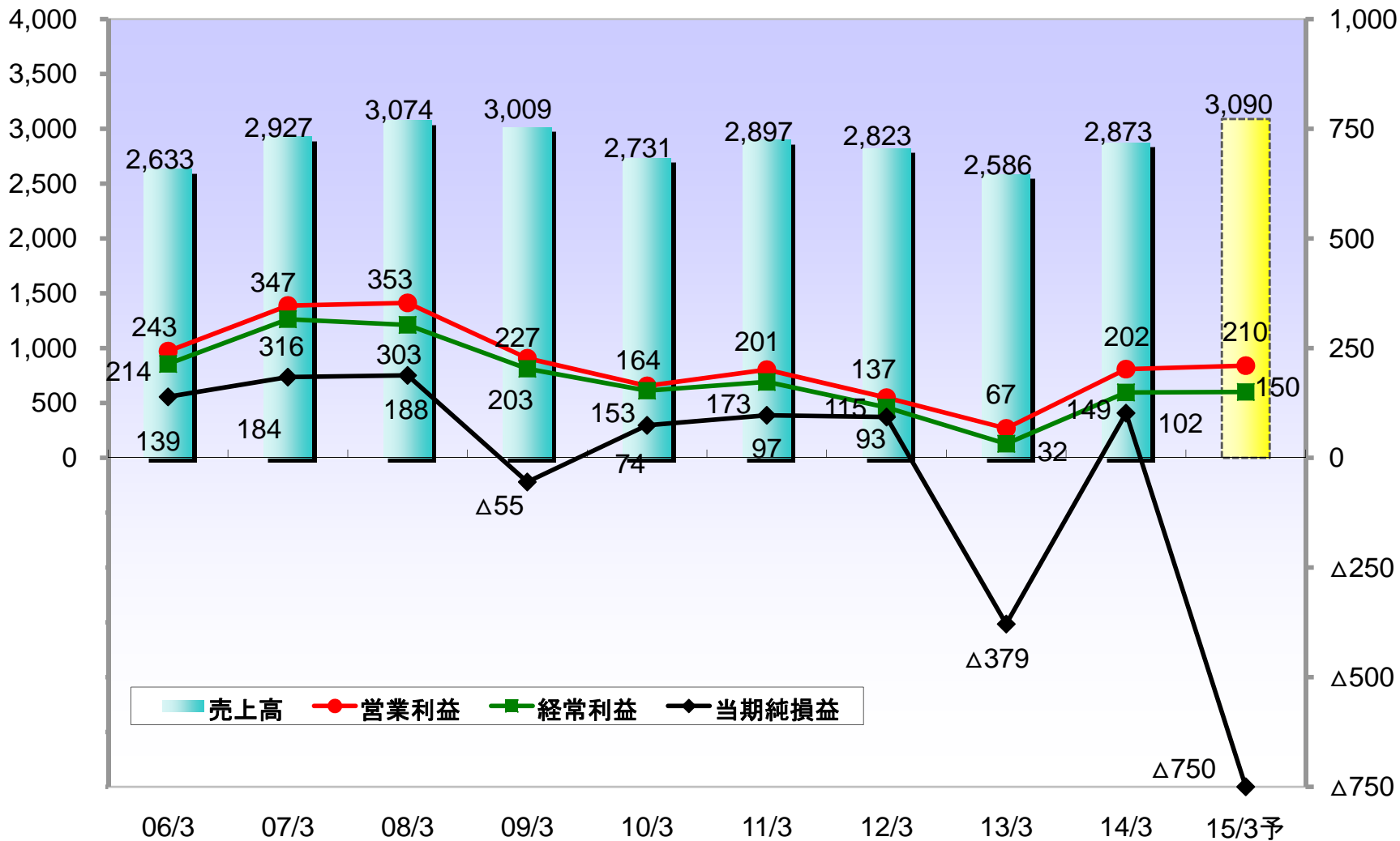
連 結
(予想の前期比)

		2015年3月期 予想		2014年3月期 実績		増 減	
		連結	単体	連結	単体	連結	単体
設備投資額	認可枠合計	305	91	-	-	-	-
	見込(14年度) 実績(13年度)	331	90	610	51	△279	+39
減価償却費		192	107	167	113	+24	△6
研究開発費		95	71	87	64	+8	+6

7. 業績推移 連結 (通期)

売上高(億円)

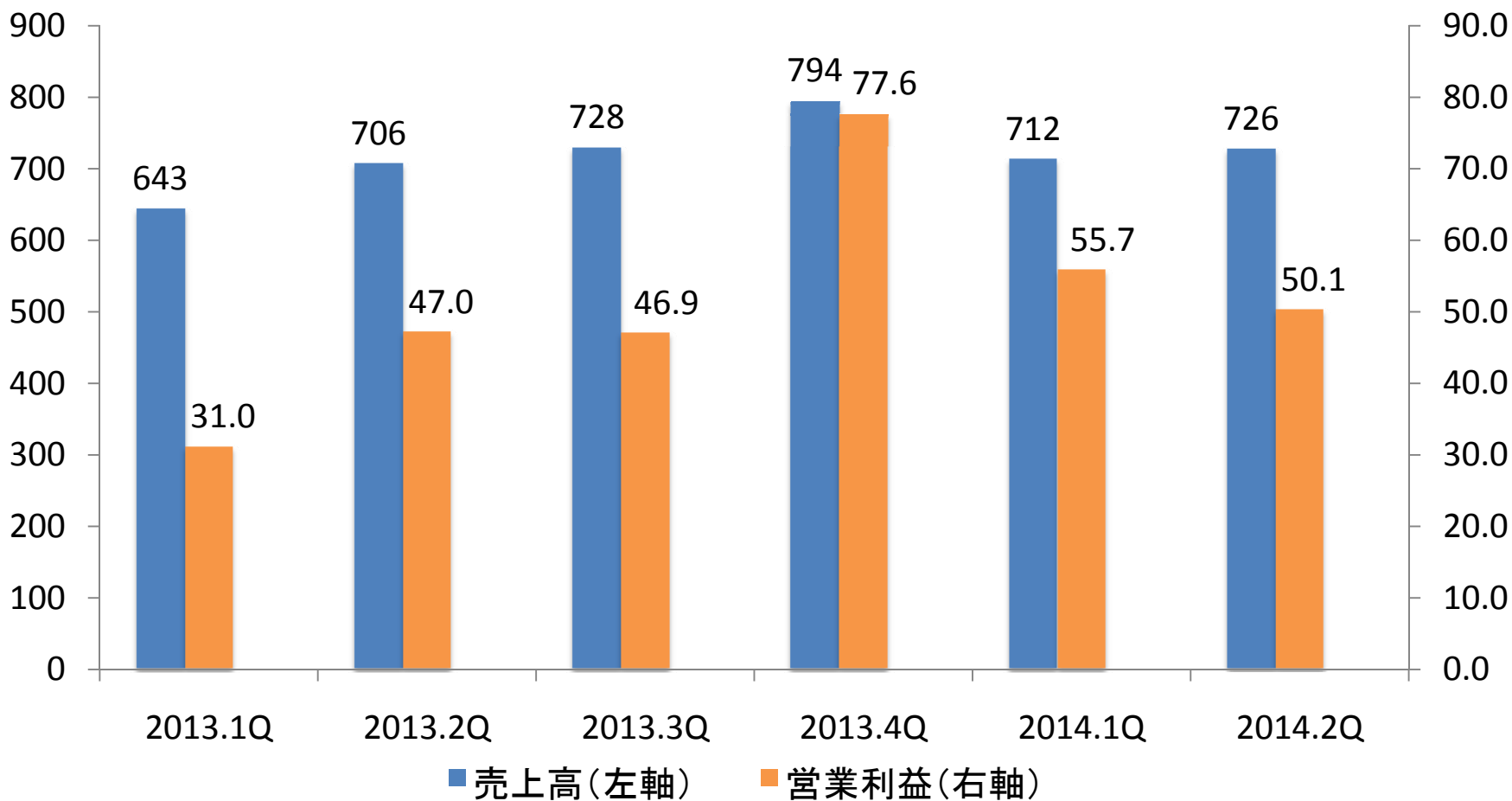
利益(億円)



7. 業績推移 (四 半 期)

連結

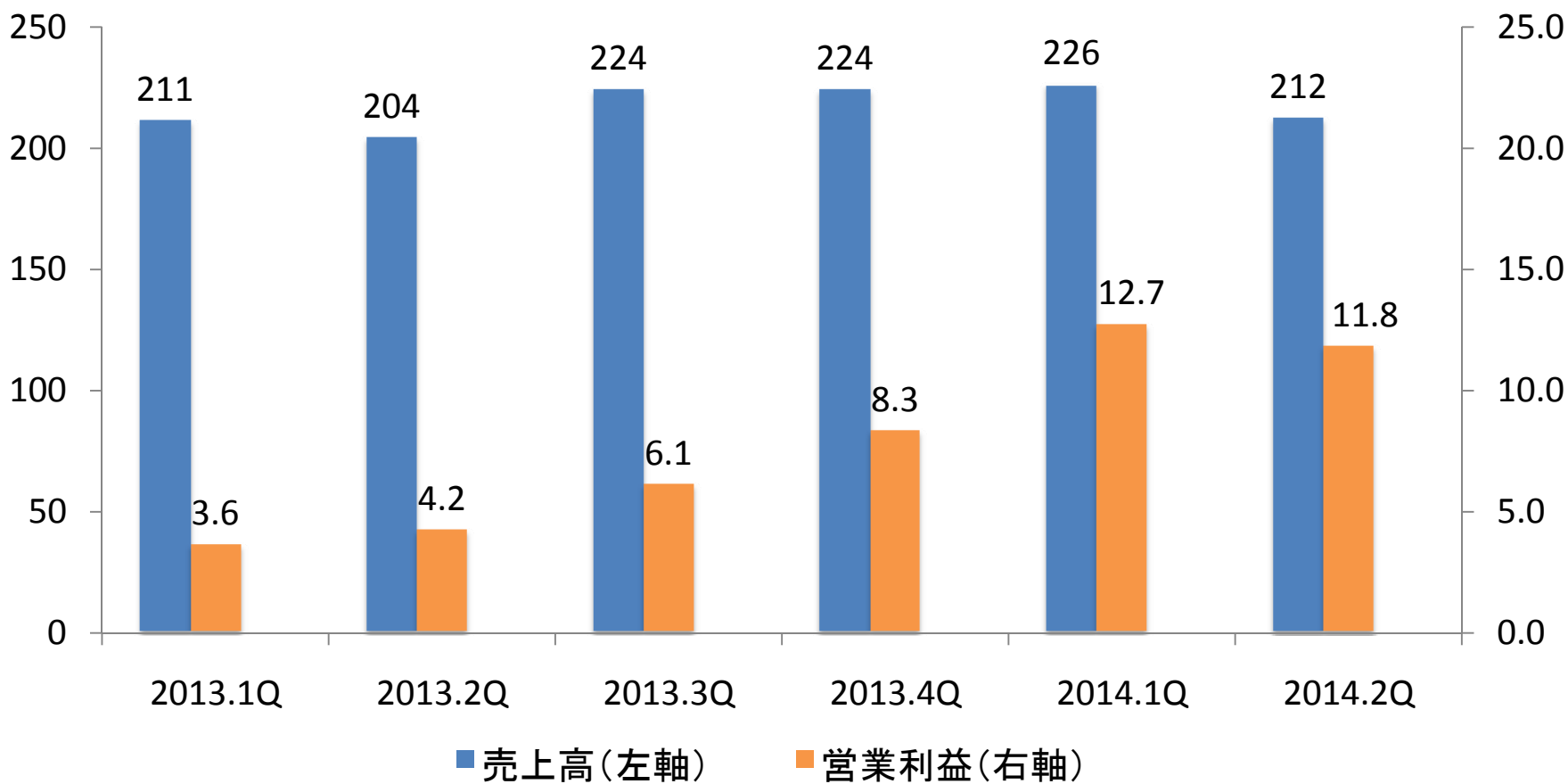
(億 円)



7. 業績推移 (四 半 期)

化成品

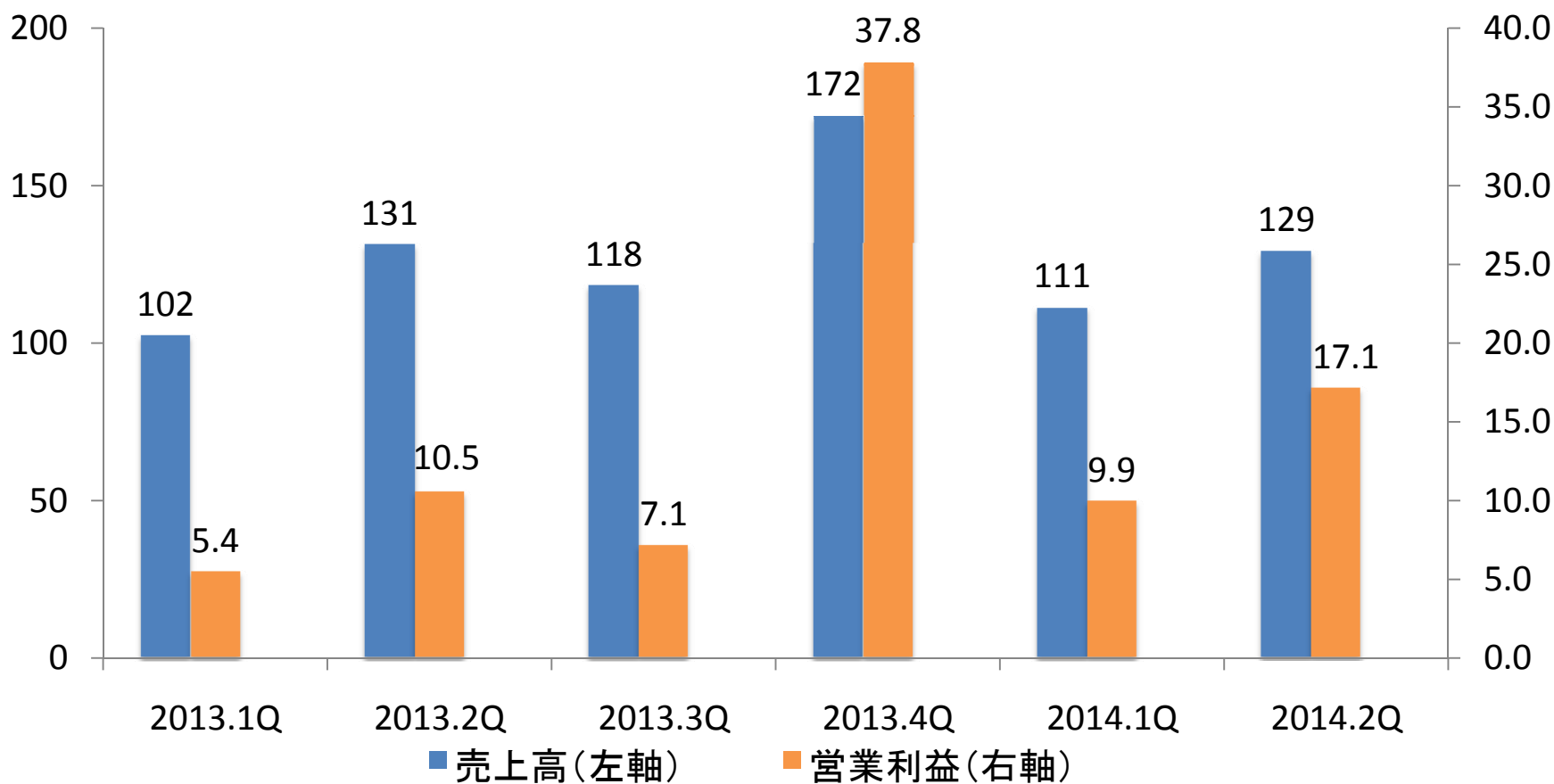
(億 円)



7. 業績推移 (四 半 期)

特殊品

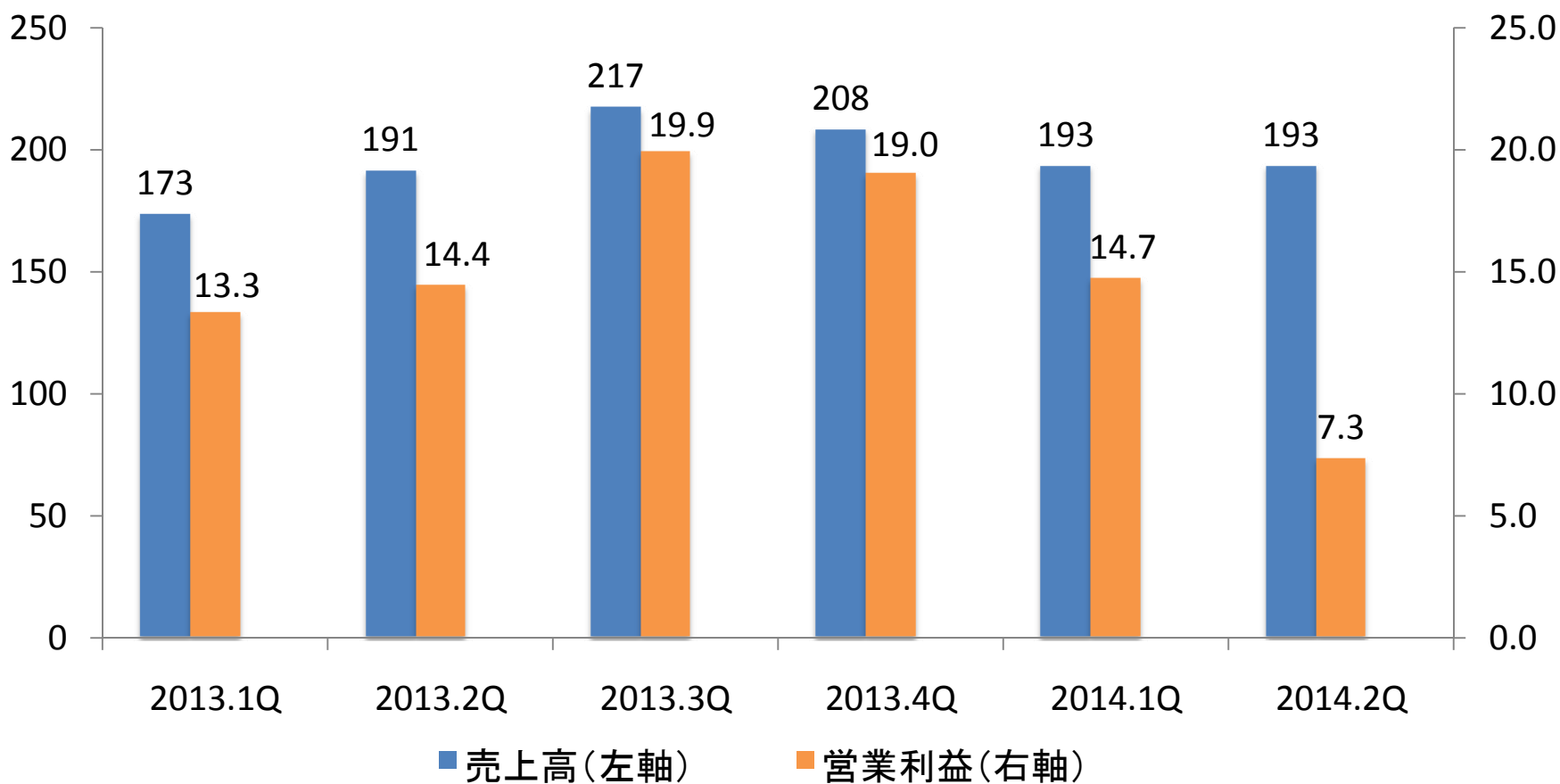
(億 円)



7. 業績推移 (四 半 期)

セメント

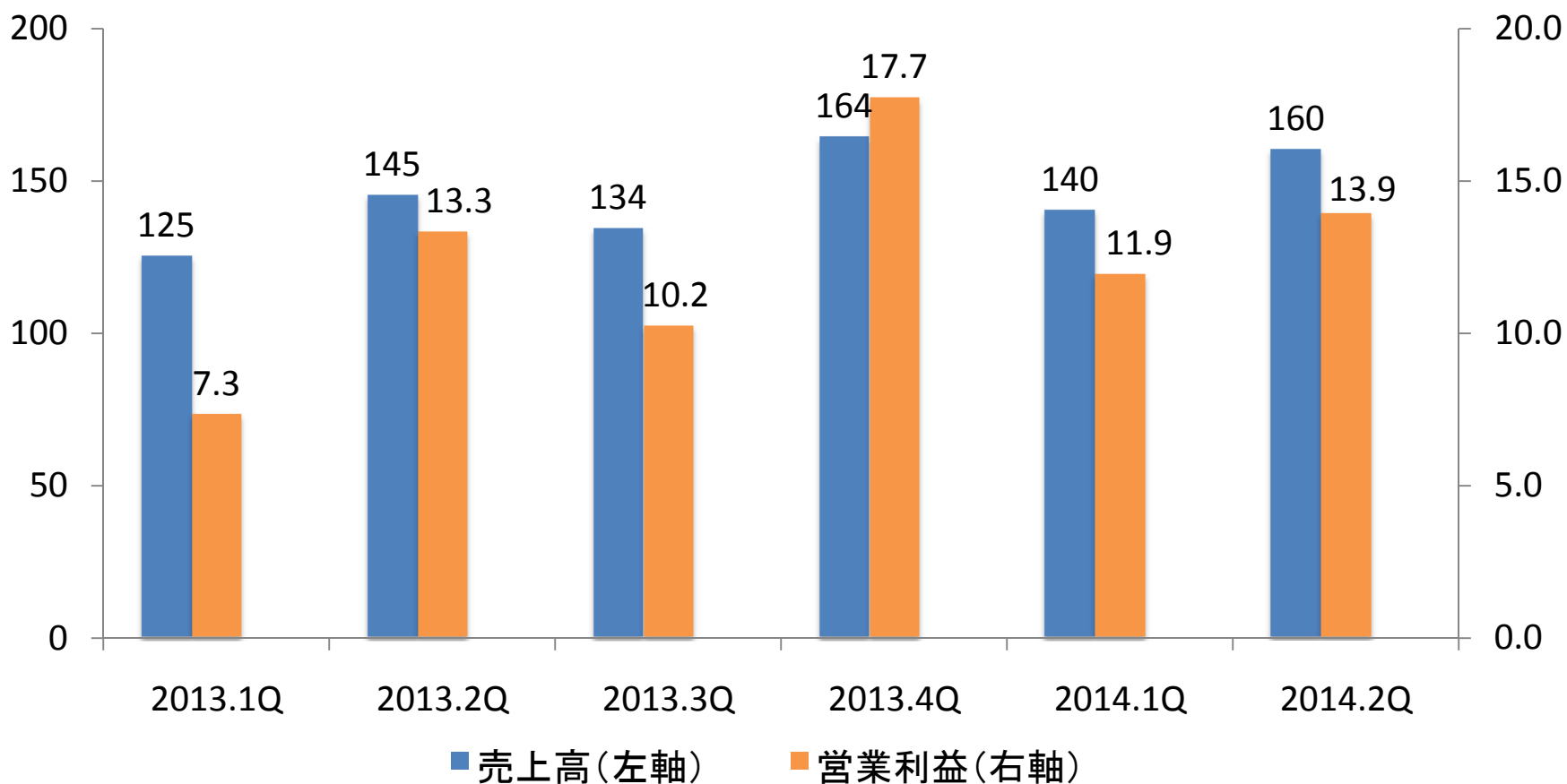
(億円)



7. 業績推移 (四 半 期)

ライフアメニティー

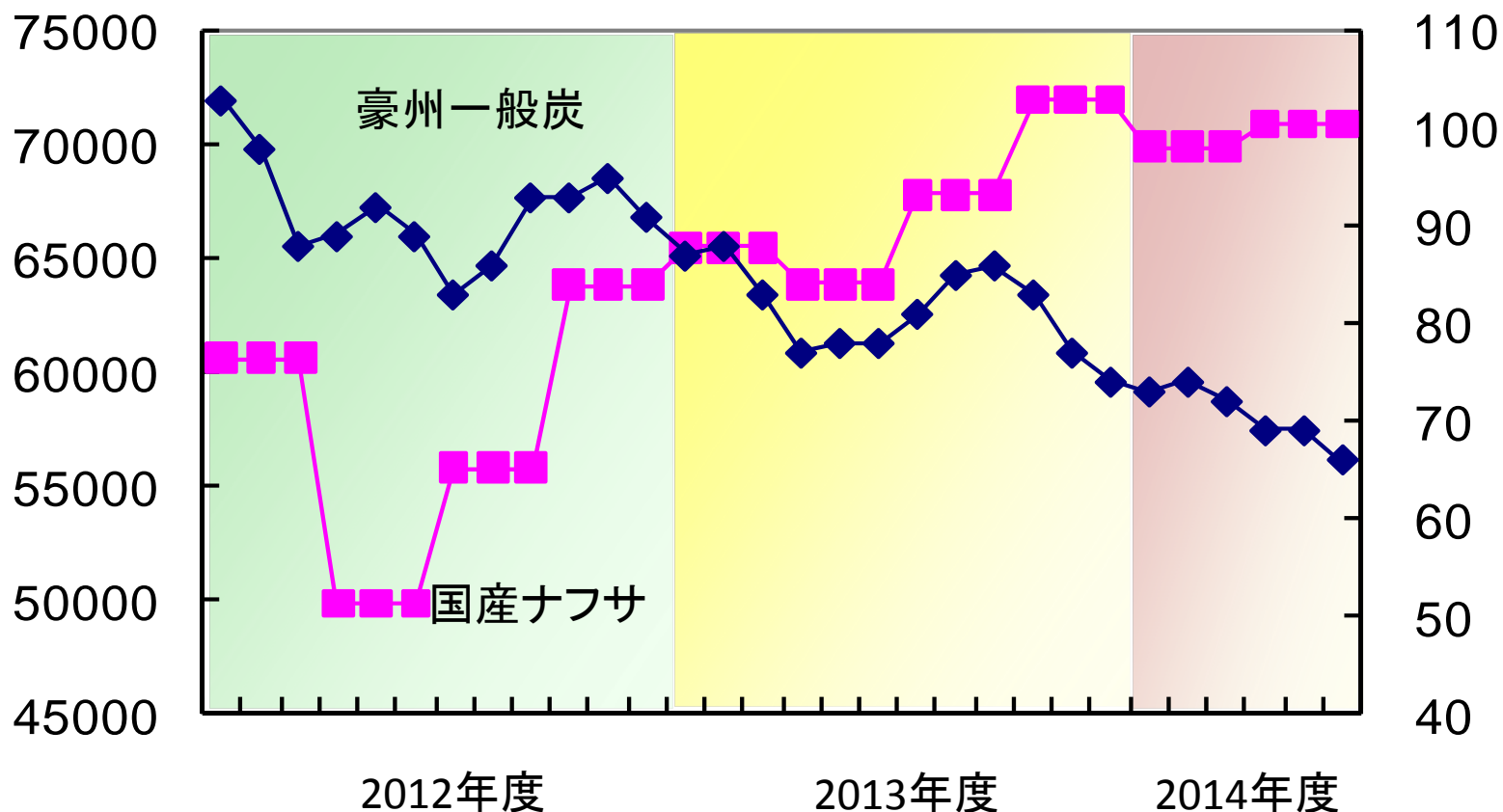
(億円)



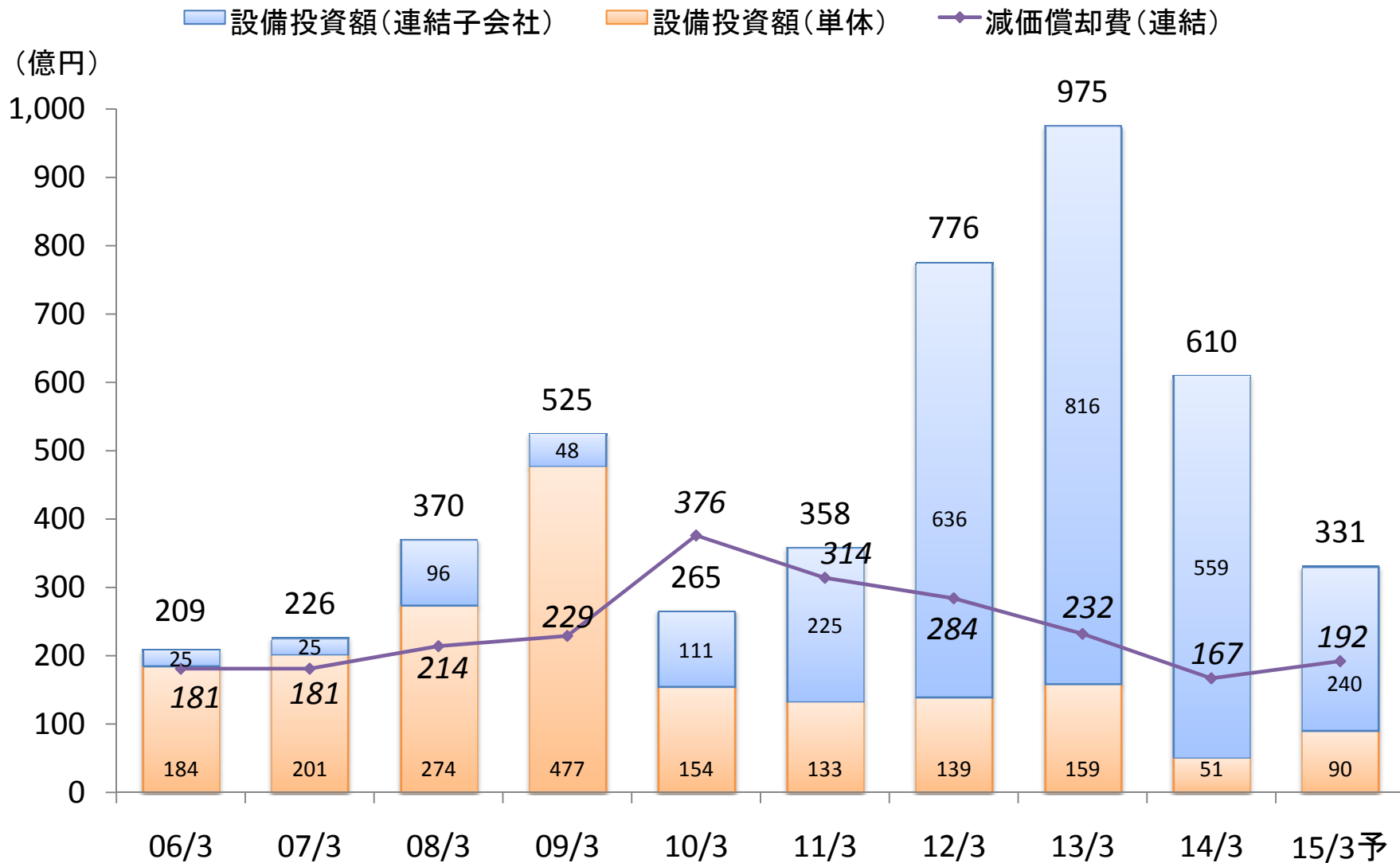
8. 主要原材料価格推移

国産ナフサ価格
(円/kl)

豪州一般炭スポット価格
(\$/トン)

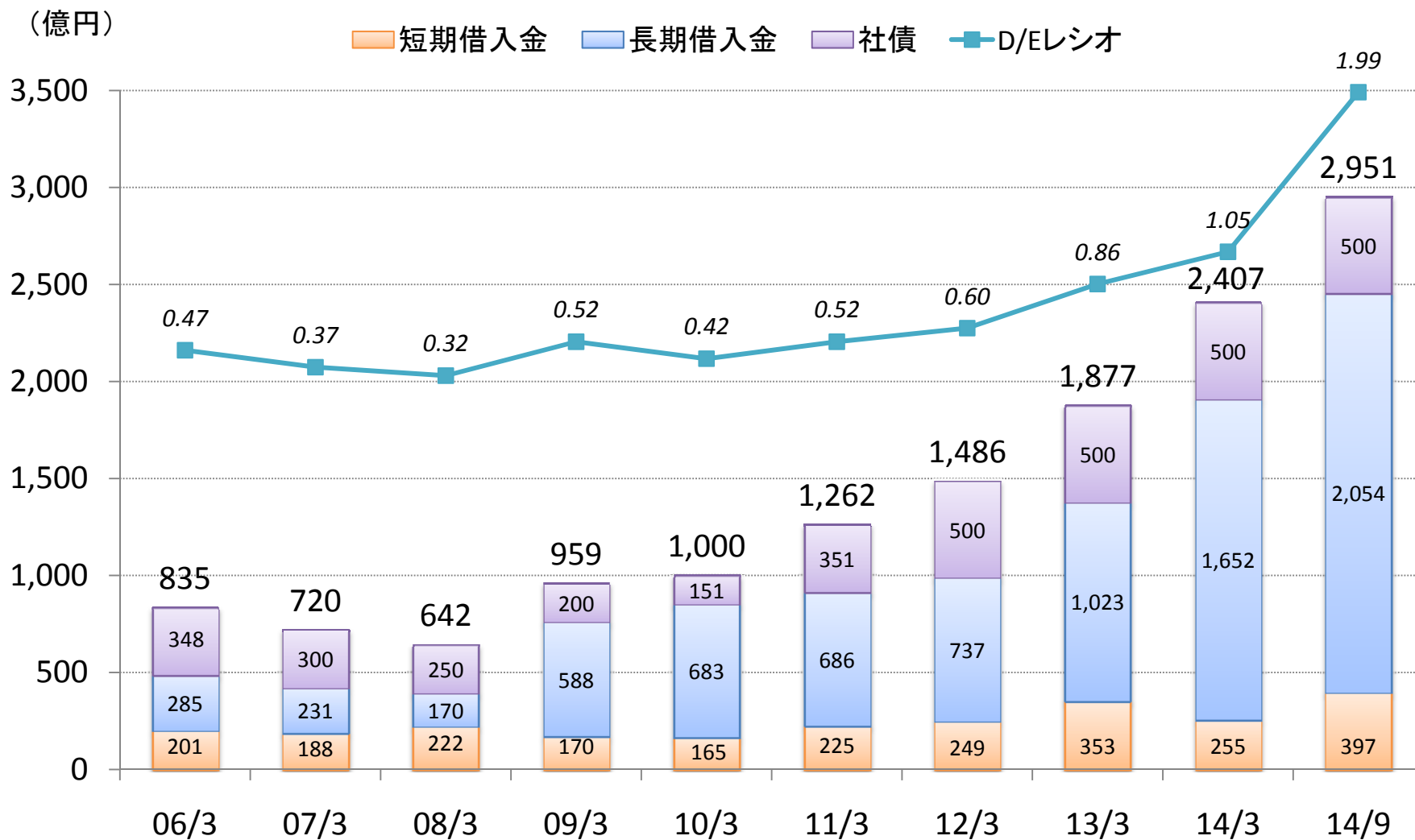


9. 設備投資額・減価償却費推移



10. 有利子負債残高推移

連 結



11. 業績予想修正(上期・下期) 連結(前回予想比)

(億円)

	2015年3月期 (7/31発表)			2015年3月期 (10/31修正)		
	上期	下期	通期	上期(実績)	下期	通期
売上高	1,440	1,565	3,005	1,438	1,651	3,090
営業利益	100	85	185	105	104	210
経常利益	75	60	135	82	67	150
当期純損益	60	35	95	△805	55	△750
1株当たり純利益(円)	17.25	10.06	27.31	△231.40	15.82	△215.58
為替(円/\$)	101	100	101	103	105	104
国産ナフサ価格 (円/kl)	71,100	71,300	71,200	70,400	69,000	69,700

11. 業績予想修正(上期・下期)

セグメント別(前回予想比)

(億円)

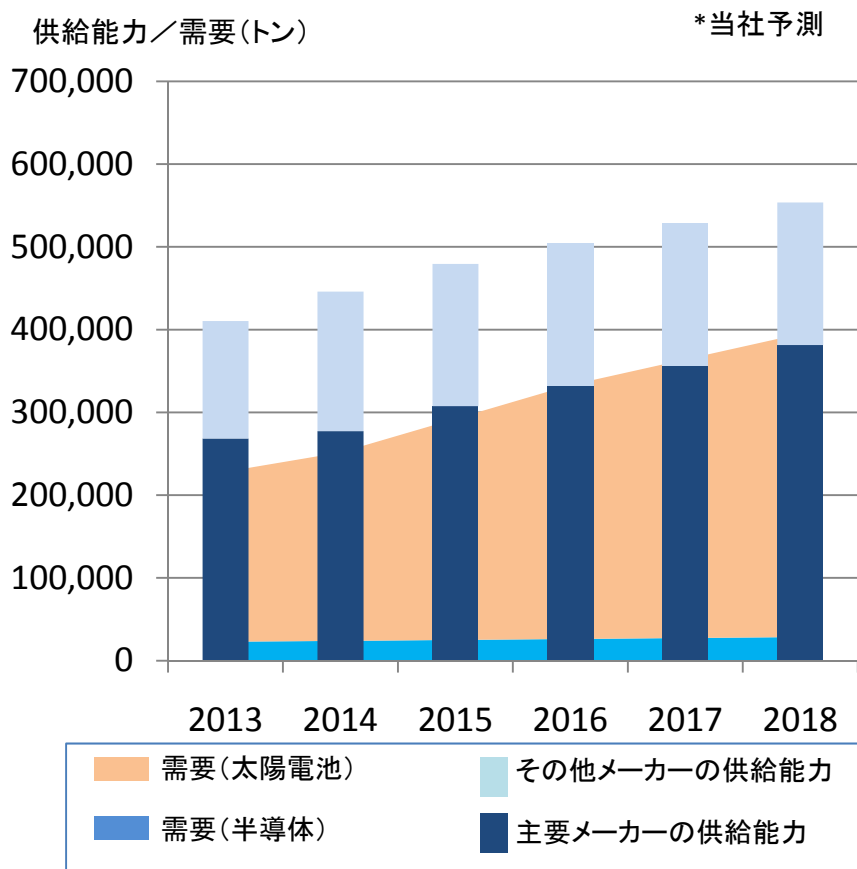
	2015年3月期 (7/31発表)						2015年3月期 (10/31修正)					
	上期		下期		通期		上期(実績)		下期		通期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
化成品	440	20	525	15	965	35	439	24	520	20	960	45
特殊品	250	20	325	20	575	40	241	27	353	32	595	60
セメント	395	30	410	30	805	60	386	22	428	27	815	50
ライフアメニティー	290	25	280	20	570	45	300	25	279	19	580	45
その他	250	25	250	30	500	55	249	26	260	28	510	55
計	1,625	120	1,790	115	3,415	235	1,617	126	1,842	128	3,460	255
セグメント間 消去・ 全社費用	△185	△20	△225	△30	△410	△50	△179	△20	△190	△24	△370	△45
連結決算	1,440	100	1,565	85	3,005	185	1,438	105	1,651	104	3,090	210

12. 主要グループ会社売上高

	会社名	事業内容	資本金 (百万円)	出資比率 (%)	売上高(百万円)	
					13年9月期	14年9月期
①	新第一塩ビ(株)	塩化ビニル樹脂の製造販売	2,000	71	10,429	11,317
②	トクヤマ通商(株)	セメント・生コンクリート、各種建設資材の販売	95	100	11,688	10,616
③	サン・トックス(株)	プラスチックフィルムの製造販売	1,600	100	8,768	9,522
④	(株)トクショウ	生コンクリート、各種建設資材の販売	40	100	4,782	5,223
⑤	関西トクヤマ販売(株)	生コンクリート、各種建設資材の販売	80	100	5,218	5,172
⑥	(株)エイアンドティー(12月決算)	臨床診断分析機器、試薬及び関連システムの販売	578	40	4,378	4,343
⑦	(株)エクセルシャノン	プラスチックサッシの製造販売	495	100	3,912	3,194
⑧	徳山化工(浙江)(有)	乾式シリカ、TCS、STCの製造販売	377 百万元	100	2,090	2,835
⑨	フィガロ技研(株)	ガスセンサ素子及び応用製品の製造販売	99	100	2,335	2,706

13. 多結晶シリコン市場動向

多結晶シリコンの需給予測



(注1) 主要メーカーは、NPD SolarbuzzのTier1メーカー
 (注2) 需要は、IHS、NPD Solarbuzzを基に、当社予測

今後の見通し

<半導体向け需要>

◆タブレット、スマートフォン向けの需要拡大で年率5%程度の増加が見込まれる

<太陽電池向け需要>

◆欧州では補助金削減等により太陽電池導入量が大幅減となるものの、中国、日本、米国等で積極的な導入政策による成長が予想され、年率15%程度の需要拡大が見込まれる

<供給サイド>

◆当面供給能力過剰の状況が続く。コスト競争力が生き残りのカギとなる

14. 太陽電池マーケット

太陽光発電の導入モチベーション(中・長期)

1) エネルギー問題 (化石エネルギー枯渇)

シェールガスなどの非在来型天然ガス資源の低コスト回収技術が確立されたことで、化石エネルギー源枯渇に対する危機感は薄れつつあるものの、石油資源国などでは枯渇の危機感が依然根強く、自国の電力需要をまかなう為のエネルギー源として太陽光発電導入を推進する動きも。

2) エネルギー安全保障問題

日本を始めとする少資源国家において重要な課題である。
国外の資源に頼らないエネルギー源として太陽光発電への期待が高まっている。

14. 太陽電池マーケット

太陽光発電の導入モチベーション(中・長期)

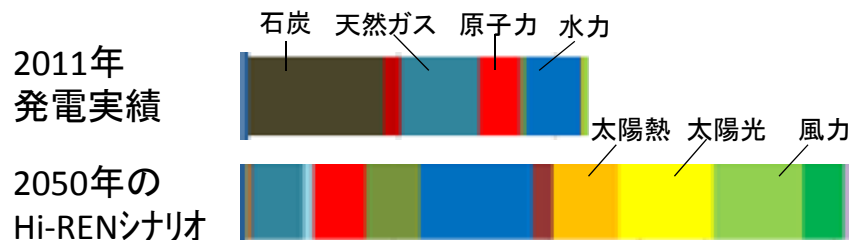
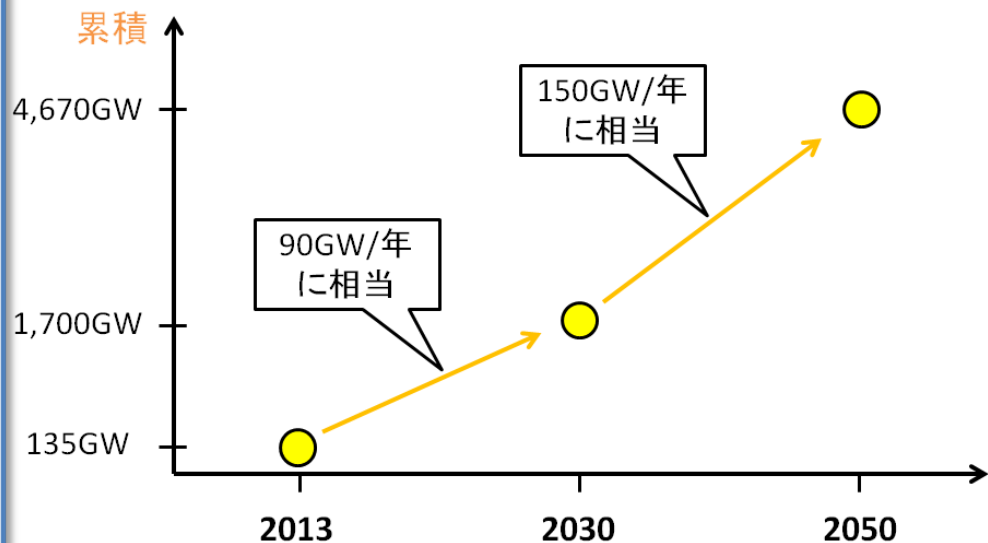
3) 環境問題 (地球温暖化)

温暖化対策としてのCO2削減は重要課題の1つであり、太陽光発電の導入普及がその有力な課題解決手段の一つとして期待されている。

4) 経済合理性

一部の国・地域では、既に発電コストが系統電力価格以下になりつつある。太陽光発電は経済面、環境面でバランスのとれたエネルギー政策実現の為の有力な手段になった。

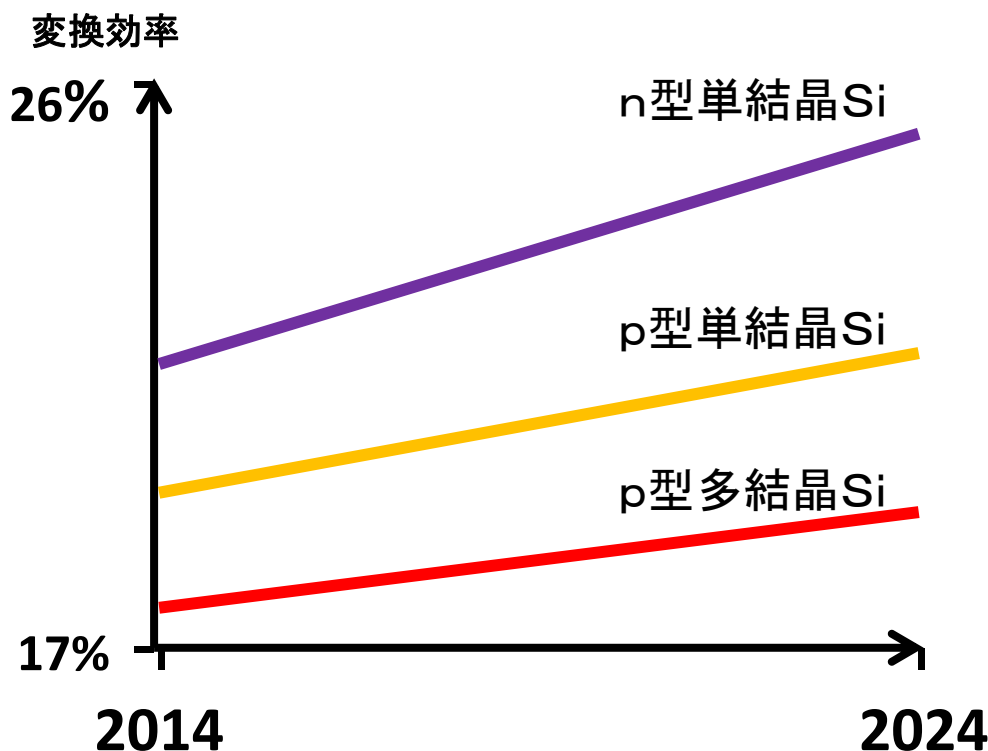
持続可能な社会を実現するための太陽光発電導入量



(注) IEA Technology Roadmap - Solar Photovoltaic Energy 2014 edition “Hi-REN scenario”に基づいて当社作成

14. 太陽電池マーケット

セルの効率化のトレンド



(注) SEMI “www.itrpv.net” (技術ロードマップ) を基に当社作成

● 結晶シリコン系太陽電池は性能・信頼性とも高く、今後の技術進歩とともに結晶シリコン系太陽電池市場は成長し続ける

● 太陽電池セル性能は、n型単結晶を筆頭に、p型単結晶、p型多結晶など全セグメントで今後、更に改善されていく



トクヤマは、高品質のポリシリコンを安定供給することで、結晶シリコン系太陽電池の性能向上と市場の成長に寄与する

本資料に関するご注意

本資料は情報提供を目的とするものであり、何らかの勧誘を目的とするものではありません。

本資料は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものでありますが、不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じるいかなる損失に対しても、当社は責任を負いません。

Chemistry with a heart

TOKUYAMA

